ZiKomo（ジコモ）通信

マラウイ No.13 2017. 10. 25

青年海外協力隊　河嵜　菜月

Muli uli? こんにちは。マラウイは夏に入り、私の任地では毎日最高気温35℃前後と、暑い季節が始まりました。更に1日の停電時間も7～10時間と徐々に長くなってきています。

さて先日隊員達で集まり、**ホロホロ鳥**と**モルモット**を捌いて食べました。日本では肉類はスーパーで切り身を買うことしかありませんが、マラウイでは鳥類は家庭で育て、絞めて食べることが一般的です。牛・豚・ヤギ等は屠殺後、そのままの姿で吊り下げられて売られています。日本にいる時にはあまり意識をすることのなかった、**“命を頂く”**ということと、その感謝を日々感じながら生活をしています。

日本ではペットとして親しまれているモルモットですが、こちらでは食用として農園で育てられています。（ネズミはマラウイ中部のみでよく食べられているとのこと）
肉質は固め。獣臭く、可食部は少ないです。

ホロホロ鳥
集団生活を好み、常に集団で行動します。
飛行可能です。
肉質は固いですが、鶏よりも美味しいと評判です。

今回の通信は、今マラウイで起きている騒動と、それに関する風習についてお伝えします。

☀ マラウィアンの国民性☀

Warm heart of Africa : アフリカの暖かい心

これはマラウイのニックネームです。こちらで生活していると、ニックネームの通り穏やかでフレンドリーな人が多いと感じます。今までに、全く知らない人でも、私が困っていると皆で助けてくれる、そんなことが何度もありました。マラウイは旅行ガイドブック、ロンリープラネットが選ぶ**世界で一番フレンドリーな国トップ10**にランクインしたこともあるほどです。また、犯罪率も低いことで知られています。そのためか、アフリカの他地域の人々と比べて警戒心が薄いようで、実際、アフリカ他国でマラウィアンが犯罪被害にあう確率はかなり高いそうです。
和を大切にし、控えめで温厚、やや恥ずかしがりやなところが日本人と似ています。

吸血鬼 騒動 -Human Bloodsucker-

最近、マラウイ南部で吸血鬼騒動が起こっています。
先月初旬から、呪術に使用するために住民の血を奪う、という**【吸血鬼】**の噂が南部地域を中心として広がっています。
この吸血鬼は隣国、モザンビークから入国し**黒魔術**を使って住民から血を奪っている、とされており、地域住民の不安が高まっています。
この噂を信じた住民たちが各地で自警団を結成し、疑わしい人間や吸血鬼の入国を手助けしたと疑われた町の有力者に、私的制裁を加えています。現在までに10人の方がリンチや投石により犠牲になり、一番最近起こった事件では、関与したとされる120人以上が警察によって逮捕されました。
モザンビークとの国境に近い町から始まったこの騒動は、徐々に周辺県へ拡大中。マラウイ人、外国人にも死傷者が出ていることから国連職員やアメリカのボランティア団体も該当地域から撤退しています。私達JICA、青年海外協力隊の該当地域の一部隊員も現在首都退避となり、現在その地域は隊員の立ち入りが制限されています。

⚠ モブ ジャスティス　-マラウイの恐ろしい風習- ⚠

マラウイではニュースなどでよく**モブ ジャスティス（Mob Justice）**という言葉を耳にします。これは、Mob=暴徒、Justice=正義で、**暴動の正義**という意味で、集団による私的制裁を指し、今回の吸血鬼騒動もこれの一種にあたります。
マラウイには何か事件が起きた場合、警察が介入する前に犯人・加害者に私的に制裁を加える、という風習があり、これが度々起こります。時に行き過ぎて犯人が重傷を負ったり、死亡することもあるそうです。犯人を死亡させてしまっても、地域ぐるみで隠ぺいするため、それを罪に問うことは難しいそうです。更に怖いことに、それらは事件の大小、故意かどうかは関係なく制裁を加えられることがほとんどです。近隣の村で携帯や家畜を盗んだ犯人が村人達から集団リンチにあった、という話も聞きます。
これはマラウイに限らず、多くの発展途上国でも起きているようです。

（右）死亡事故を起こし、モブジャスティスを受けたミニバス（運転手は無事）
車で人を轢き死亡させてしまった場合、近隣の人々に車に火をつけられ、車ごと焼き殺されることがあります。よって、マラウイ警察も国民も、死亡させたと思ったら、とりあえず遠方まで逃げ、身の安全を確保したうえで警察に出頭する、という流れで動くことを推奨しているそうです。

⚠ 黒魔術 ⚠

世界には未だ黒魔術が信じられている地域があります。マラウイもその一つです。
ウィッチドクター（Witch Doctor）という呪術医が存在し、この人達が黒魔術を使う、と信じられています。ウィッチドクターは超自然的な力を使い、病気や怪我の治療をしたり、占いや呪いをかけたりすることもできると信じられており、それに人間の臓器や骨を使用したりもするそうで、関連する事件も多く起きています。（若い男性の性器が切り取られる、アルビノの人が襲われ臓器、皮膚、骨等がウィッチドクターに売られる等）

マラウイはアフリカの中では珍しく、JICAの規則による渡航禁止区域がない比較的安全な国でした。
しかし、このような事件があると、教育水準の低さ、情報格差によって引き起こされる社会問題や集団心理の恐ろしさを痛感します。
今回の騒動がいち早く収束し、いつもののんびりと平和なマラウイに戻ることを願っています。

今回、吸血鬼騒動について書きましたが、私の任地は一連の事件がある場所から最も離れた場所であることもあり、いつもと変わらずとても平和です。
次号、マラウイの数少ない観光地を紹介します。
Zikomo!!　Yewo!!　Tionanenge!